

若シモ私が我が學界で我が思フ事が存分ニ實行ノ出來ル地位ニ居レバ私ハ日本ノ爲メ我が植物界ニ一モ空店ノ無イ様ニ其店子ヲ拵エテ見セル位ノ抱負ハ持つテ居レドモ殘念ナ事ニハ我が身ハ其ンヲ要路ニ當ツテ居ナイカラ遺憾ナガラ采配ヲ振ツテ思フ存分我が心事ヲ行フ事ハ出來ナイガ、我學界デハ一モ殘サズ其部門々々ニ一ノ大將即チ其レ々々ノ専門家ヲ拵エテ其處ニ陣取ラセ置カナクテハナラヌ事ハ今誰レガ之レヲ考ヘテモ其結論ハ其處ニ達スル、是レ則チ斯ク爲ル事が現下ノ我日本ニ取ツテハ確カニ喫緊ナ事デアルカラデアル

此ノ様ニシテ我日本ニ産スル植物ノ全部ヲ一日モ早く調べ上ゲ其完全ナ戸籍簿ヲ作成スル事が我が文化ニ貢獻スルノミナラズ一國ノ體面トシテモ當然之レヲ做シ遂ゲネバナラス所以デアル、其レ故ニ我が植物界ニ於テハ何ハトモアレ其界中ニ於ケル植物種類ノ研究調査ハ先ヅ最初先頭ニ之レヲ實行スベキ緊切ナ仕事デアルト謂ヘル、我邦ヲ念ヒ我學問ヲ憂フル程ノ人ナレバ誰レモ之レニ不同意ヲ唱フル者ハアルマイ、ガ然シ我が東京帝國大學デ植物學ヲ專攻シテ卒業シタ人が今日マデ、約ソ百五十人ニモ垂ントシテ居リ且年ヲ累ヌルコト凡ソ四十五六年ニモナツテ居ルニモ拘ハラズ、マダ我邦植物界ノ一部門々々ニ悉ク其専門ノ學者ヲ得テ居ナイ事ハダウシタモノカ、我日本ノ爲メニ私ハ之レヲ殘念ニ思フ、毎年々々卒業生ヲ我が大學ノ校門ニ送り出ス時其教授諸君ハ我日本ノ植物ノ爲メニ彼等ニ對シテ果シテ何ヲ訓示シテ居ルノデアラウカ、苟クモ上ノ缺陷ヲ遡視シテ何ンデ我が「日本ノ植物學」ニ權威ガアラウ、何ンデ光輝ガアラウ、何ンデ名譽ガアラウ、又何ンデ誇リガアラウ、今日日本ノ植物學者ハ宜シク我が日本ノ現狀ニ鑑ミ其研究事項ノ輕重ヲ考慮スベキ秋デハナイカ

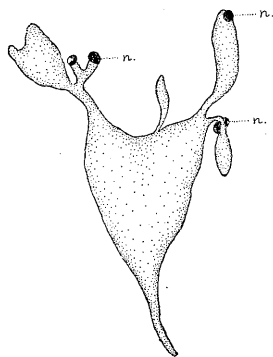
○海藻學上ノ一新事實

理學博士 岡村金太郎

最近海藻學ノ烟ニ起ツタ面白イ研究ガアル、夫ハ百年モ前カラ知レテ居タモノデハアルガ然シ昭和ノ今日迄極

マラズニ居タ問題デアッタノダ、處ガデンマークノ KOLDERUP-ROSENVINGE ト云フ老學者ガ研究シテ漸ク極マツタ事デ然モ夫ガ今日迄知ラレテ居ル中デ實ニ奇抜ナ生活ヲシテ居ルモノデアルト云フ事實ガ知レタト云フ事ナノデアアル

事件ハ紅藻類中ノ一植物デ學名ヲ *Phyllophora Brodiaei* ト云フモノニ、從來ハ寄生シテ居ル海藻トシテ居ラレタモノガ實ハ寄生デハナクテ其海藻ノ實デアルト云フ事ナノデ夫ダケデハ實モ蓋モナクナゝんだと言ッテ了ヘバ夫迄ダガ夫ガ仲々面白イノデアアル、決シテ私ダケ一人ヨガリノ面白イノデハナイ、恐ラク讀ンデ見タラ研究ト云フ事ニ趣味ヲ有ッ人ナラ之ガ愉快デナクテ何デアラフ

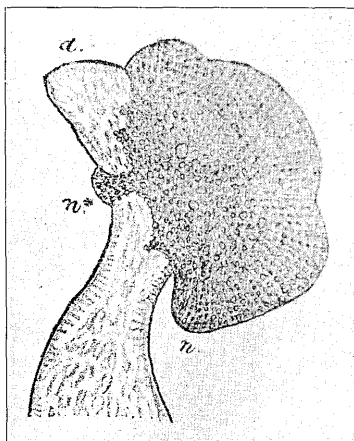


Phyllophora Brodiaei (TURN.)
J. Ag. ノ體上ニ在ル *Actinococcus roseus* (LYNGB.) ノ *Nemathecia* (n.). 1/1
(C. V. DARBISHIRE)

大分前置ガ長クナッタノデ本問題ニ入ルトシテ、歐洲産ノ *Phyllophora Brodiaei* (TURN.) J. Ag. ノ體上ニハ大キイ處デ約三「ミ

リメートル」位ノ塊(即チ *Nemathecia*)ガ出來其中ニ念珠ノ様ニ列ヲナシテ四分胞子ガ出來ル、此レガ問題ノモノナノデ此事ハ隨分以前カラ知ラレタ事實デ此種類ヲ記載シタ TURNER ノ *Historia Fucorum* (1809) ニモ此小體ハ此海藻ノ繁殖器トシテ報ジラレテ居ル、處ガ其後 LYNGBYE ハ千八百三十四年ニ此小體ヲ此海藻ノ上ニ寄生スル別個ノ植物ダトシテ之ニ *Chaetophora membranifolia*

ト云フ名ヲ與ヘ、TURNER, KÜTZING ナド云フ學者モ之ト同シ考ヘテ殊ニ KÜTZING ハ此小體ヲ *Actinococcus roseus* ト云フ名デ圖說シテ居ル、夫カラ後千八百五十一年ニハ J. AGARDH ハ TURNER ノ如ク此小體ヲ此海藻ノ四分胞子デアッテ寄生植物デハナイト言ヒ夫ト同時ニ此小體ト同様ナ囊果ヲ得タト報ジタ(然シ此囊果ハ其後何人モ觀察シタ人ハナイ)、此様ニ議論區々デアッタノデ、F. SCHMIDTZ ハ更ニ數年ノ研究ヲ重ネタ結果

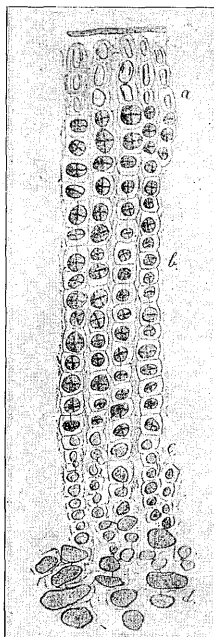


Actinococcus roseus (LYNGB.) KOLD.
ROSENV. 濃キ部分ガ寄生セル Nema-
thecium デ淡キ部分ガ其寄主ノ體ノ一
部デアル (四十倍大)

a 枝ノ頂端
n 四分孢子群
n* 新ニ形成セラレントスル 四分孢
子群

(O. V. DARBISHIRE)

此小體ハ此海藻ノ上ニ生ズル寄生植物デアルトノ
結論ニ達シ其後佛國ノ GOMONT ハ再ビ夫ヲ研究シ
テ SCHMITZ ノ説ヲ確メタ、然シ一方獨逸キール
ノ學者 BEINKE ハ氏ノ下デ行ナハレタ DARBISHIRE
ト云フ人ノ Phyllophora 屬ノ精密ナ研究ノ結果此
寄生植物トサレタ Actinococcus roseus ハ果シテ
一個ノ植物デアるか否カニ疑ヲ抱キ此小體ハ此海
藻ト別ノ植物デハナクテ Phyllophora Brodiaei ノ
無性代ノ植物ガ母體ノ上ニアルノデハナイカトノ
考ヲ有ツテ居タ



更ニ廓大セル 同上ノ一部

a 四分孢子ノ列ノ上
部ノ中性細胞
b 四分孢子ノ列
c 四分孢子ノ列ノ下
部ノ中性細胞
d 下部ノ組織ノ細胞
(O. V. DARBISHIRE)

サテ KOLDERUP-ROSENVINGE ハ五十
年ニモナラフト云フ間デンマークノ
海藻ノ研究ニ没頭シテ居ルニモ係ハ
ラズ未ダ嘗テ此海藻ノ囊果ヲ見タコ
トガナイノハ如何ニモ不審デアツテ
若シ此 Phyllophora Brodiaei ガ全

ク囊果ノナイモノデアルトシテ其體ニ出來ル四分孢子ノ小塊ガのSCHMITZ ノ考ヘタ如ク寄生デアルトスルト結
局此海藻ハ如何ナル種類ノ孢子モ有タヌト云フ事ニナル、其處デ ROSENVINGE 氏ハ(一)此問題ノ小體ノ根源如
何、(二)此第一ノ根源ト Phyllophora Brodiaei ノ生殖器トノ續キ工合如何、(三)此小體內ニ生ズル四分孢子

發芽シテ何ヲ生ズルヤト研究ヲ進メテ見タノデア

其處デ此問題ノ寄生植物ダトセラレテ居タ四分胞子ヲ培養シテ二箇年半ヲ費シ高サ二「ミリメートル」ノ植物ヲ得タノダガ夫ガ天然ニ生ズル *Phyllophora Brodiaei* ト異ナラザル事ヲ確メタ、勿論二年半ヲ經タ個體トシテハ二「ミリ」ハ小サキニ過ルケレドモ此ハ培養ノ爲メ總テノ條件ガ惡イタメナノデ敢テ不思議ハナイ

次ニ此四分胞子ト母體トノ續キ工合ノ研究ヲヤツテ見タ處ガ助細胞ガ雌雄ノ核ノ合一シタ核ノ働キヲ受ケテ彌々果胞子ヲ作ル段ニナルト紅藻類ニ普通ナ様ニ囊果ニナラズシテ四分胞子ノ塊ヲ拵エテ *OKAMURA* ノ所謂寄生植物ト云ツタモノガ出來上ツタト云フ次第デア、即テ一般ニ囊果ヲ作ツテ其中ノ果胞子ガ別個ノ植物ニ發育シテ四分胞子ヲ作ルベキモノヲ極端ニ緊縮シテ果胞子トナラズ一足飛ビニ四分胞子ヲ作ツタト云フ次第デア、數年前佛國ノ *SAUVAGEAU* 氏ガこんぶノ世代交番ヲ研究シテ學界ニ一大「センセーション」ヲ引起シタ事ガアルガこんぶノ雌ハ小サイ顯微鏡的ノモノトハ云フテモ尙ホ一個細胞ガ二個細胞ノ大キサノこんぶトナツテ夫ニ卵ガ出來此卵ト雄ト合一シテ本物ノこんぶトナツテ游走子ヲ作ルノデア、今此 *Phyllophora Brodiaei* ノ場合ハ胞子體ノ植物ハ全ク省略シテ偶性體カラ直グ大急ギデ胞子體ノ胞子ヲ作ツタト云フ事ナノデア

因ニ記ス *Phyllophora* ハ今日迄ノ所本邦ニハ産セヌモノデ、曩ニ私が拙著日本藻類圖譜第四卷第百八十二圖版ニ *Phyllophora intricata* OKAM. (まろこしばり) ト云フ新種ヲ發表シタガ此レハ其後囊果ヲ得タノデ屬ガ明ニナツテ *Rhodymenia intricata* OKAM. トナルベキモノデア、事ヲ附記シテ置ク、イヅレ圖譜第六卷ノ第三冊カ第四冊カニ出ルデアアラフ

○大隅屋久島ニ於ケル毬果植物ノ分布

理學士 正 宗 嚴 敬

本島産ノ毬果植物ハ私ノ調査ノ範圍ニ於テハ六科十二種アル、次ニ其ノ科名及種名ヲ列記スルト